令和5年度　研究の全体構造図

児童の実態
- 主体的に学ぼうという姿勢に差がある。
- 読解力や文章をまとめて書く力が弱い。
- 語彙が少ない。言葉のきまりも曖昧である。
- 読書量，音読する力に差がある。

【学校教育目標】

思いやりのある子　　深く考える子　　からだを鍛える

【重点目標】

〇主体的，対話的で深い学びを実現する授業

〇横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメント

〇学び方の定着と学習習慣づくり

学力向上プランより
- 問いの内容を理解し，提示された条件を把握する力
- 問題解決に必要な情報を資料等から探し出す力
- 問いに正対し，提示された条件や目的，意図に応じて説明したり書いたりする力

【研究主題】

『読みの力を身に付け，豊かに表現する子の育成』

～　「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動の充実を通して　～

【めざす子ども像１】

基礎的・基本的な読みの力を身に付けた子

【めざす子ども像２】

かかわり合いの中で，思考を深め，表現を工夫できる子

【仮説１】

言葉の特徴や使い方を身に付けさせることで，正しく情報を捉え，話や文章を理解することができるだろう。

【仮説２】

対話や吟味を重ねることで，考えを深め，よりよい表現をすることができるだろう。

【研究内容１】

〇言葉の特徴や使い方を身に付けさせる工夫

＊日常的な指導や環境作りによる言語能力の育成

【研究内容２】

〇言葉による見方・考え方を働かせることができる言語活動の工夫

＊対話や吟味の場の設定

＊見方・考え方の変容を振り返る場の設定　　など

研究の実践を支える土台

☆ＩＣＴの効果的な活用

☆読書活動の充実

☆校内の言語環境の充実（教師の言葉遣い・掲示物・図書館等）

☆自分の思いや考えを自由に話せる学級経営

☆辞書の積極的な活用